

# 介護のコト体験フェア 知って得するプロのワザ〜について

## 東京都福祉人材センター

「介護の日」の11月11日、「福祉の仕事イメージアップキャンペーン事業」実行委員会(事務局:東京都福祉人材センター)では、「介護の日」フォーラムと同会場で、「介護のコト体験フェア」を知って得するプロのワザ〜を開催しました。

今回の企画は、多くの方に「福祉の仕事の魅力ややりがい」をアピールすることにより、福祉人材の確保を図るとともに、福祉の仕事の社会的評価



プロの実演を見てメモをとる参加者もいました



ステージでは認知症の寸劇も行われ、来場者はくいのように見ていました

を体験できるWonderLand!と題し、様々なコーナーを設置しました。

「活動紹介」コーナーにおいては、デイスの現場で健康体操として行われている「よさこいソーラン」のにぎやかな鳴子が来場者を迎え、その奥のセミナー会場では、「在宅介護ストレスへの対処法」や「高齢者住宅の選び方」「福祉用具の使い方」などのテーマで講演が行われ、定員を上回る人が講師の話に聞き入っていました。

また、在宅介護にも役立つように、生活の場面を考慮設定した「移乗」「たべる」「排泄」「入浴」のコーナーでは、介護福祉士や栄養士、福祉用具の企業など第一線で働いているプロたちがデモンストレーションを行う様子を来場者は真剣に見て聞いていました。中には、おむつ交換のモデルになって高齢者の気持ちや体験したり、開発されたばかりのパワースーツ(ロボット)を着て重い荷物を軽々と上げる体験をしている人もいました。「介護予防」のコーナーでは、歯科衛生士による口腔体操が人気でした。紙面では紹介しきれない数多くのプログラムが各コーナーで展開され、クロスワードパズル(答えは「かいこのひ」)を行いながら会場内をまわる参加者もいて、会場内は熱気に包まれていました。



介護現場での実用化が期待されるパワースーツ。重いトランクも持ち上げることができました

## 地方自治体、関係団体の取組

に行けばよいのか、といった質問が多く寄せられました。

福祉や介護の現場で働く人が中心

となり、関係団体による実行委員会を立ち上げて開催した今回のイベントは、多くの人に介護に携わるプロが持つ

ている知識や技術を見て聞いて実感してもらおうことにより、在宅での介護に役立てることはもちろん、福祉や

介護の仕事の素晴らしさを考えてもらうきっかけになったのではないでしょう

### 1 なら介護の日2009 — 奈良県

奈良県では、介護の日の11月11日、やまと郡山城ホールにて、「なら介護の日2009」を開催しました。

今年度は、家庭や施設などで介護をしている人たちが力づけるとともに、介護家族、専門職や市民ボランティア、企業、行政などによる幅広い支え合



会場には、平成遷都1300年祭マスコットキャラクターせんたくくんも登場!

いの必要性について、共に考え、共に学ぶという趣旨に賛同するNPOや専門職団体など24の団体により構成する実行委員会に、奈良県もその一員として加わる形でイベントを開催しました。このような形式でのイベントの開催は、初めての取組となりましたが、イベントの「支え合いの地域をつくるために」という趣旨に最も沿った形式であり、今後の民間と行政の「協働」のあり方の一つの形を示すことができたのではないかと思います。

当日は、奈良介護大賞、あたたか介護賞の表彰、記念講演会、親守唄・歌会や介護・介護の仕事に関する無料相談、福祉用具の展示、高齢者向け食事のレシピの紹介など、盛りだくさんの内容のイベントとなりました。

奈良介護大賞、あたたか介護賞は、地域社会における支え合いの文化づくりにつながる介護の実践を募集し、顕彰するもので、29の団体、個人からの応募がありました。選考の結果、奈良介護大賞には、家族・地域介護部門に、脳卒中の後遺症と格闘しながら、生きる意欲と社会参加につながる活

動を続けている「奈良県脳卒中者友の会 桜の会」、介護サービス従事者部門に、24時間巡回型ホームヘルパーとして、主に午後9時から翌朝9時までの夜間の勤務を続けている吉本和美様(47)が選ばれ、また、あたたか介護賞には4つの団体と4人の個人が選ばれました。受賞された方々には、表彰状と副賞の旅行券が授与され、奈良介護大賞の受賞者からは、活動内容を紹介していただきました。中でも、桜の会からは、活動のひとつである「失語症合唱団」の合唱を披露していただき、来場者に深い感銘を与えました。

記念講演会は、社会福祉法人自立共生会理事長で医師でもある多湖光宗氏を講師に迎え、「認知症老人の底力を地域に生かす」と題して、自ら運営するグループホームでの取組について御講演いただきました。認知症老人の底力を子育てや地域の防犯に役立てている活動を御紹介いただき、皆様熱心に聴いておられました。

親守唄・歌会は、子から親へ愛を贈ると題して、詩、曲を募集し、全国から100を超える応募をいただきました



「失語症合唱団」の歌声は心に響きました

した。作詩部門の入選3作品は朗読、作詩・作曲部門の入選2作品は応募者による演奏と歌の発表が行われ、長野県小林和彦様の母親に対して普段口にはできない感謝の言葉を曲に乗せた「貴方へ…」が親守唄大賞に選ばれた「ふるさと」の合唱でイベントはフィナーレとなりました。

今回のイベントを通じて、いろいろな団体による支え合いのネットワークづくりについて、一つの発信ができたと思います。また、地道で小さな取組でも、